

## グローバル・カフェ「Focus on Burundi and Rwanda」 イベントを開催しました

2022年6月29日(水)18時から、グローバル・カフェでは、「Focus on Burundi and Rwanda」イベントをハイブリッドで開催しました。ブルンジとルワンダはどちらもアフリカ東部にあって南北に並んだ国々ですが、私たちにはあまり馴染みがないのではないのでしょうか。今回は両国からの留学生とのやりとりを通して、それぞれの国の文化についての理解を深めようというインタビュー形式のイベントでした。学生25名、教職員10名、学外者1名の計36名(うちオンラインは11名)が参加しました。

イベント冒頭では、ルワンダに駐在経験があり、かつブルンジを何度も訪問されたことがあるJICA(国際協力機構)ガバナンス平和構築部平和構築室の室谷 龍太郎氏にそれぞれの国の概要や現地での経験等をお話いただきました。

その後、話し手となる2名の留学生から自国の紹介を含めた自己紹介がありました。メインセッションでは、「ブルンジでの結婚式」と「ルワンダでの赤ちゃんの名づけ」をトピックとして取り上げました。

ブルンジでは、「部族に関係なく結婚できるようになり、親が結婚相手を決めることが減ったが、結婚するにあたり必ず3つのステップを踏む」そうです。具体的には、まず伝統的な衣装を着て花嫁となる女性の家で式を行い、次に証人と共に役所で手続きをし、その後、キリスト教の教会で式を行います。

ルワンダでは昔は、生後80日で命名式があり、子どもたちを招待して名前を提案してもらったそうで、「国の情勢」「近隣の治安」「親が子どもにつかせたい職業」に基づき名前を決めたとのこと。現在は、法律によって、産院を退院する前に名前を決めなければならないことから伝統的な命名式は減ってきているそうです。

最後のQ&Aセッションでは、「ブルンジでは海外の人と結婚する場合も伝統的な式を行う必要があるのか」「セネガルでは結婚相手の姓によって結婚が許されないことがあるが、ルワンダやブルンジではどうか」等の質問がありました。ブルンジではたとえ外国人と結婚するのであっても必ず決められた3ステップを踏まなければならないこと、ルワンダでもブルンジでも姓で結婚相手を決めることはないとのことでした。

次のイベントは、7月13日(水)の第2回ミニ模擬国連です。



イベントの様子



集合写真